

29.【耕地面積】 上位の県・市町村の大半は北日本(北海道・東北等)に集中

[前回](#)の農業産出額に続いて、今回は「耕地面積」をとり上げます。耕地面積は「作物統計」（農林水産省）で把握できますが、ここでも、市町村別の値は「都道府県計値の内訳として市町村別に配分することにより作成した加工統計であり、市町村別の値を目的として設計された調査に基づいて直接得られたものではない」とされ、やはり精度面で難があるとも言えるため、前回同様、都道府県別の比較を主としつつ参考として市町村別の比較を扱うこととします。

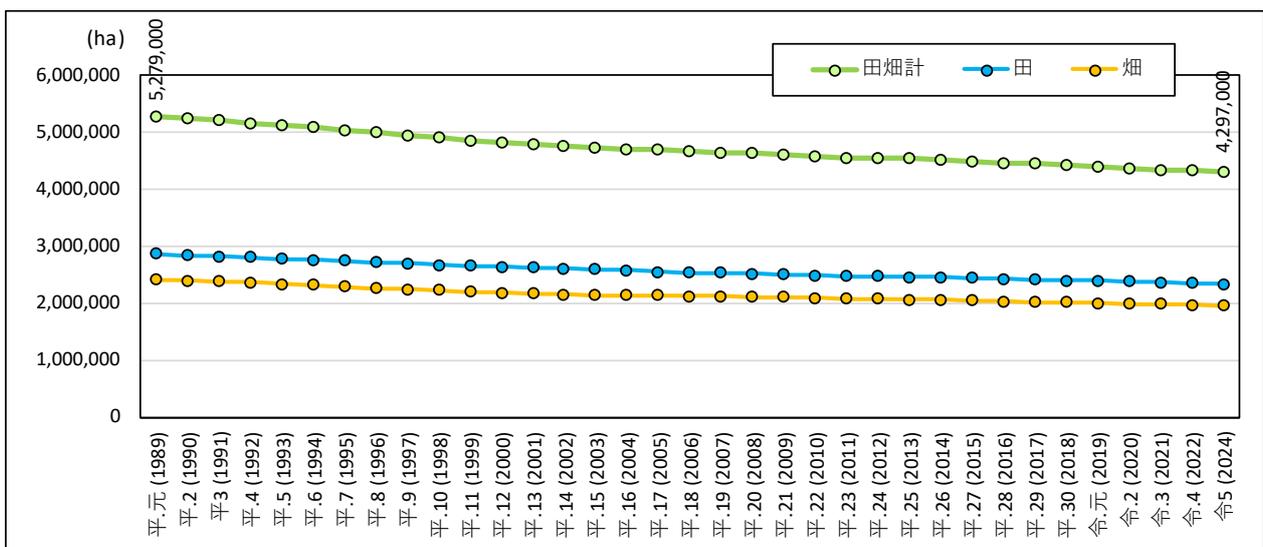
ここで、「耕地」とは、農作物の栽培を目的とする土地のことで、本地（直接農作物の栽培に供される土地）とけい畔（主として本地の維持に必要なもので、いわゆる畦（あぜ）のこと。田の場合はたん水設備）で構成されます。なお、「栽培」とは、生産物を得ることを目的として作物を肥培管理することです。また、「耕地」は「田」と「畑」に分けられ、田とは、かんがい施設（用水路など）を有する耕地、畑とは、田以外の耕地で、普通畑＋樹園地＋牧草地と定義されています。

作物統計は、戦後の昭和 22 年からの歴史を持つ統計調査であり、耕地面積調査は昭和初年から行われてきたとのことですが、このうち平成以降の全国の耕地面積の推移をみると、下図のようになっています。

耕地面積は、ここ 35 年だけでも田、畑ともに漸減しており、最新の令和 5 年の全国の耕地面積は約 430 万 ha で、平成初年からおよそ 2 割減少しています。前回記事でみたように、農業産出額は最近 20 年ほど比較的安定しているの、土地生産性の向上により産出額が維持されているとも捉えられます。

田と畑の内訳では、田の方がやや面積が多い状況が続いており、国民の主食である米の生産が日本農業の柱であることが窺えますが、[前回記事](#)でみたように農業産出額では米は 15.5%（令和 4 年）なので、田より畑の方が圧倒的に土地生産性が高いということがわかります。

全国の耕地面積の推移



資料：作物統計

北海道が全国の1/4以上、日本の食の多くを北日本の大地が支える

では、最新の令和5年の耕地面積について都道府県の分布をみてみましょう。下図に、都道府県別の耕地面積全体の値が大きい順に棒グラフで示し、田と畑別の耕地面積を帯グラフで示しています。

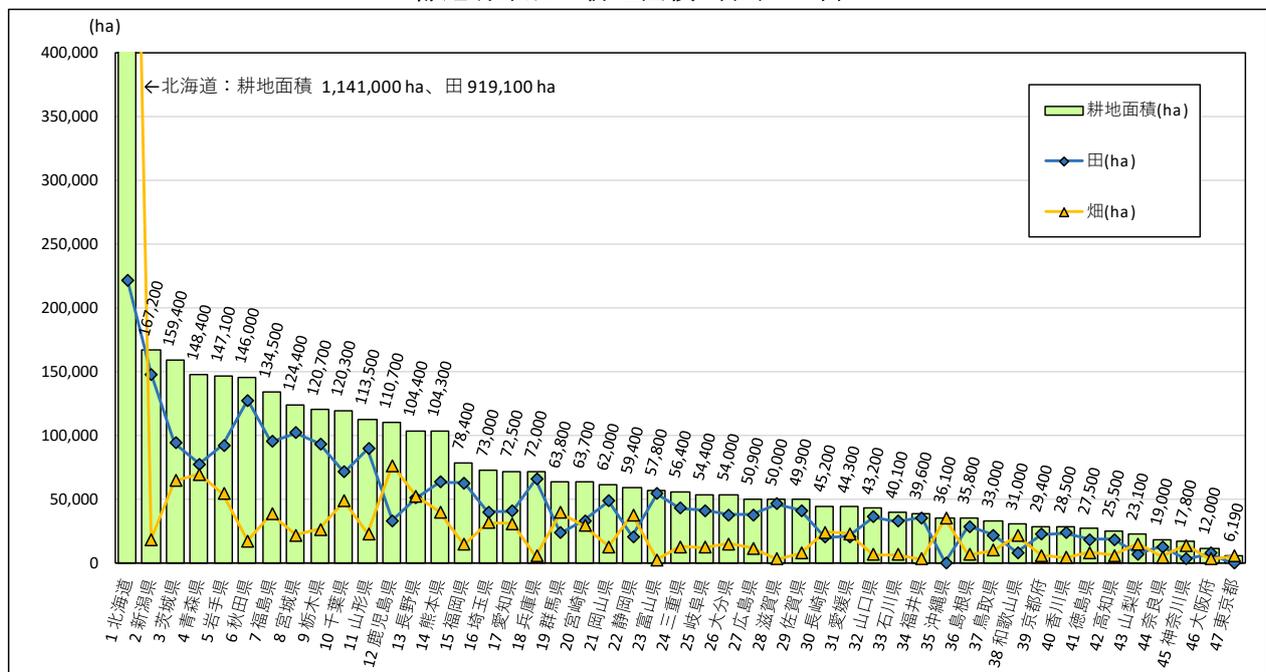
1位はダントツ北海道で、耕地面積全体と畑の面積がグラフを突き抜けていますが、その耕地面積は田畑計114万haで、全国の1/4以上を占めます。北海道ではその約8割が畑であり、その面積は全国の畑の実に47%を占めます。見渡す限りの広大な牧草地の風景などが目に浮かびます。

2位以下は、新潟、茨城、青森、岩手、秋田、福島、宮城、栃木、千葉、山形、鹿児島、長野、熊本県の順で続き、ここまでが10万ha以上です。北海道も含め、面積が広い、あるいは平地が多いなどの県が上位に並ぶのは当然との見方もできますが、北海道に東北6県を加えると全国耕地面積の約45%、さらに新潟県を加えると約半分(49.4%)を占めることになります。日本の食の多くを北日本の大地が支えている、という認識が成り立ちます。特に、前回の農業産出額を含め、「北海道おそろべし」ですね。

一方、田と畑の内訳(折れ線)でみると全体の順位とはかなり異なる様相であることがわかります。田では、北海道、新潟、秋田、宮城、福島、茨城、栃木、岩手、山形県の順となり、北関東以北が上位を独占している形ですが、畑では、北海道、鹿児島、青森、茨城、岩手、長野、千葉、熊本、群馬県の順となります。りんご畑が多い青森を除く東北各県や北陸各県、西日本でも平地が多い福岡、兵庫、佐賀県などでは田が耕地面積の大半を占めるのに対し、鹿児島、長野、群馬、静岡、沖縄県などでは畑が田を上回るといった相違が見られます。

[前回記事](#)で見たように、畑が多い県は、畜産や野菜などの産出が盛んなところで、それぞれに特徴ある農業が営まれているということです。

都道府県別の耕地面積 (令和5年)



資料：作物統計

土地生産性にはかなりのバラツキ、高付加価値の野菜や果樹、畜産に特化したところが優位

耕地面積と農業産出額の対比において、田(米)よりも畑(野菜、果樹、畜産等)の方が土地生産性が高いと前述しましたが、今回の耕地面積と[前回記事](#)の農業産出額の各都道府県の値を対比させて

☞ 耕地面積上位の市町村は日本の北半分（北海道、東北等）に集中

さて、市町村別の耕地面積の比較ですが、統計自体が都道府県値から配分された加工数値であり精度面に難がある可能性が高いことを念頭に置きつつ、ここでも前回同様に参考として上位 20 の市町村名と値を示すことにします。田畑を合わせた全体と田、畑それぞれの値での上位 20 の市町村を並べて示し、その位置を次ページのマップに示します。

全体値での上位 20 の市町村は、全てが東北・新潟以北の道県内に見事に集中し、「畑」においてはこれも見事に全てが北海道の市町村です。「田」は 15 位に岡山市があるものの他は北陸・東北以北の市町村であり、特に銘柄米を連想させる東北の米どころの地名が目立ちます。上位ランキングマップでこれほど日本の北半分に偏るのも初めてですね。

畑で 1 位の別海町は[前回（農業産出額）](#)も述べたように生乳の日本一の産地であり、ここでの「畑」は牧草地でしょう。このほかにも根室・釧路・十勝地方の市町名が上位を席卷しており、畜産がこの道東地方全体の重要な基幹産業であることを物語っています。このように、国内の各地方がそれぞれの土地の条件を生かして付加価値の高い農業を展開することで、我々日本人の食が提供されているということです。

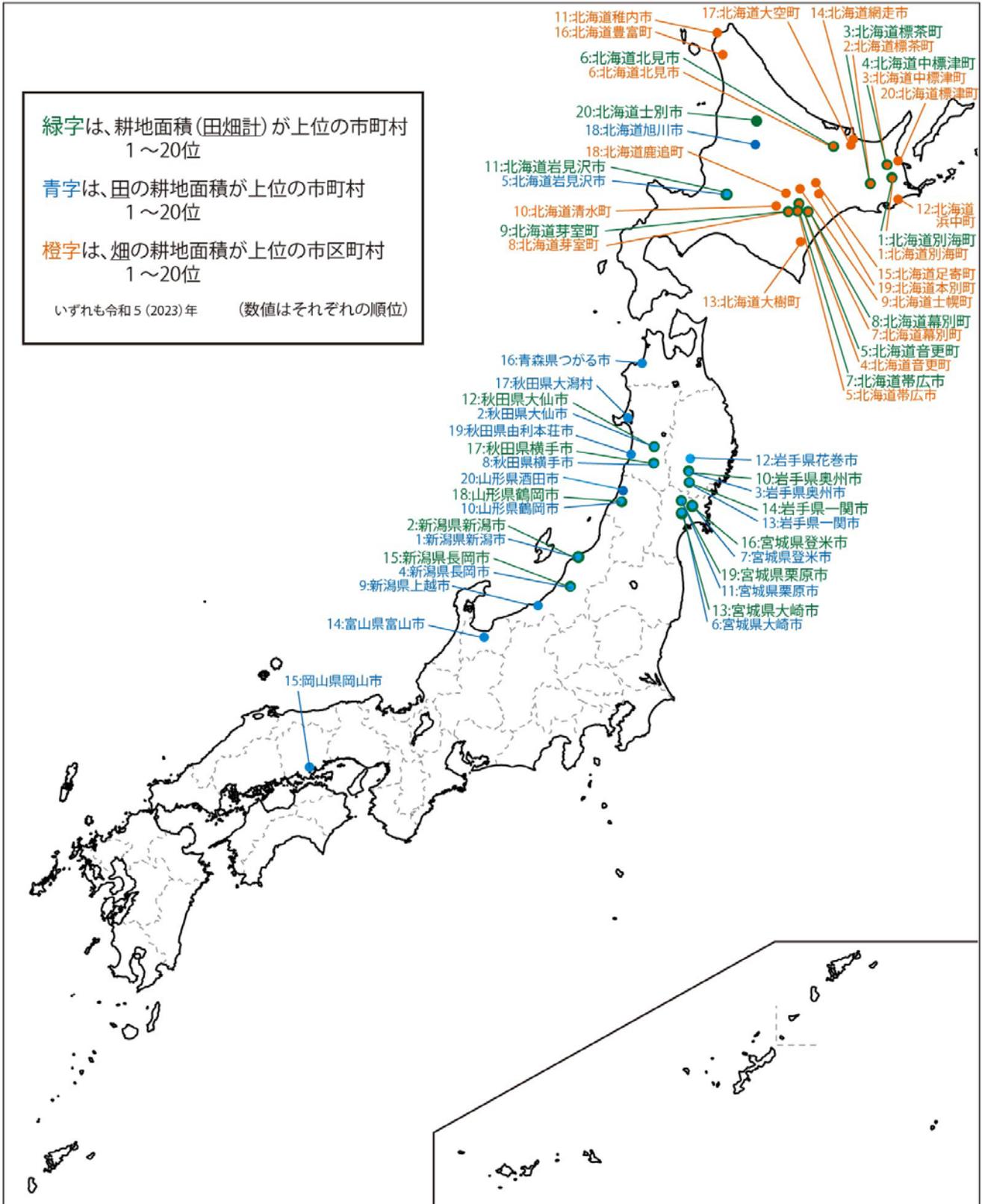
〔参考〕 耕地面積が上位の市町村

全体（田畑計）				田				畑			
順位	（県）	市町村名	耕地面積 （田畑計） （ha）	順位	（県）	市町村名	耕地面積 （田） （ha）	順位	（県）	市町村名	耕地面積 （畑） （ha）
1	北海道	別海町	63,200	1	新潟	新潟市	28,200	1	北海道	別海町	63,200
2	新潟	新潟市	32,700	2	秋田	大仙市	18,200	2	北海道	標茶町	28,900
3	北海道	標茶町	28,900	3	岩手	奥州市	17,000	3	北海道	中標津町	24,500
4	北海道	中標津町	24,500	4	新潟	長岡市	16,500	4	北海道	音更町	23,900
5	北海道	音更町	24,300	5	北海道	岩見沢市	16,300	5	北海道	帯広市	22,900
6	北海道	北見市	23,700	6	宮城	大崎市	15,900	6	北海道	北見市	22,700
7	北海道	帯広市	22,900	7	宮城	登米市	15,600	7	北海道	幕別町	22,500
8	北海道	幕別町	22,500	8	秋田	横手市	15,500	8	北海道	芽室町	21,400
9	北海道	芽室町	21,400	9	新潟	上越市	15,500	9	北海道	士幌町	15,900
10	岩手	奥州市	19,800	10	山形	鶴岡市	15,100	10	北海道	清水町	14,900
11	北海道	岩見沢市	19,700	11	宮城	栗原市	15,000	11	北海道	稚内市	14,700
12	秋田	大仙市	19,700	12	岩手	花巻市	13,500	12	北海道	浜中町	14,700
13	宮城	大崎市	18,400	13	岩手	一関市	12,200	13	北海道	大樹町	14,200
14	岩手	一関市	18,000	14	富山	富山市	12,100	14	北海道	網走市	14,000
15	新潟	長岡市	18,000	15	岡山	岡山市	11,600	15	北海道	足寄町	13,400
16	宮城	登米市	17,600	16	青森	つがる市	11,200	16	北海道	豊富町	13,300
17	秋田	横手市	17,600	17	秋田	大潟村	11,200	17	北海道	大空町	13,300
18	山形	鶴岡市	17,600	18	北海道	旭川市	10,700	18	北海道	鹿追町	12,200
19	宮城	栗原市	17,500	19	秋田	由利本荘市	10,300	19	北海道	本別町	12,000
20	北海道	士別市	16,600	20	山形	酒田市	10,100	20	北海道	標津町	12,000

資料：作物統計（令和 5 年）（農林水産省）

なお、耕地面積は、市町村別で見ると大小の幅が非常に大きいです。都市部のほか山間部や海岸沿いなどで平地が乏しいところなどでは非常に小さい値であるところが多く、実は 1,000ha 以下のところが市町村数で半数近くを占め、逆に 10,000ha 以上の広い耕地面積を持つのは全 1,719 のうち 72 市町村のみです。それらは都市部から離れた人口の少ない市町村であることが多く、そういうところが、日本の食糧供給、ひいては食糧安全保障の上でも重要な役割を担っていることも忘れないでおきたいものです。

[参考] 耕地面積が上位の市町村マップ



資料：作物統計（令和5年）（農林水産省）